



農政課題解決研修情報

農政課題解決研修(革新的農業技術習得支援研修)事務局 (連携普及部 連携普及企画室(担当:大島))
電話 029-838-7599

<研修実施状況>

○外来難防除雑草の防除技術

中央農業総合研究センターでは、8月28日～30日にかけて、標記に係る研修を実施し、15県から19名の普及指導員、研究者等が受講しました。受講生の専門分野は水田作、畑作、経営、病虫害防除、農作業機械など、多岐にわたっていましたが、昨年度までに当センターで開催された雑草防除に係る各種研修と比べて、本研修では特に、畜産及び飼料作を専門とされる方の関心が高く、多くのご参加をいただきました。

本研修では、雑草研究を専門とする農研機構及び県の研究員と大学教員の9人の講師によって、外来雑草について、特性、識別及び同定法、調査法、侵入拡散防止法、防除意志決定と対策立案、データ解析など、総合的な講義、演習、実習を行いました。三日間と十分な時間をかけたこともあり、受講生からは、帰化雑草問題の全体像が把握できたとの評価をいただいています。特に電算機室を用いたデータベースの利用やデータ解析についての演習、展示圃場を用いた雑草の識別及び同定、調査についての実習は、実際のであり現場で活用できる技術が身についたと好評をいただきました。

一方、最新の知識をお知らせしたい、また雑草研究にもつなげていただきたいということから内容に一部高度なものが含まれ、事前にもっと準備して受講したかったというご意見もいただいています。また、いくつかの講義についてはもっと時間をかけて話を聞きたい、対策法についてはもっと詳しく知りたかったという意見が出され、受講生の皆様のこの問題に関する高い関心と熱心な取り組みがうかがえました。

更に、講義によって知識を得ただけでなく、他の地域の普及指導者と交流を持ったこと、また雑草研究を専門とする研究者と知り合いになれたことが、今後の仕事に大変プラスになるだろうというご意見をいただいています。当研究センターも、この研修を機会として雑草対策についての全国的な協力関係を更に発展させていきたいと考えています。

(担当:中央農業総合研究センター 業務推進室 三枝)

○大豆の高位安定生産技術

中央農業総合研究センターでは、9月3日～5日にかけて、標記に係る研修を実施し、東北から中四国までの16県から17名の普及指導員及び研究員等が受講しました。受講生は主に作物栽培がご専門の方々に、病虫害防除や農業経営を専門とする方も含まれています。大豆について全くの初心者からかなりのベテランまで、幅広い経歴の方々のご参加でした。

本研修では、農研機構の研究員である16人の講師による講義、実習、実演及び見学が行われました。

大豆の高品質高収量を達成するための、品種育成、地力向上、養水分管理、病虫害対策、雑草対策などの問題についての講義は、受講生の関心が高く、研修最後の総合討論を含めて大変活発な質疑応答が行われました。大豆の加工についての講義と実習は、需要拡大や差別化などにつながる可能性が高いとの評価を得ましたが、普及指導員より研究者側からの興味が高かったようです。まずは研究側で製品開発を行った後、現場普及につながるものと理解されているようでした。各種作業機械の講義および実演は、受講生にとって目にするのが初めての機械もいくつかあり、実物があつたのでよくわかったと、大変好評でした。圃場見学も実際に目にすることで、理解が深まったとの評価が得られました。

アンケートでは、受講生全員から本研修に高い評価をいただいています。

今後は都道府県間の情報共有、協力関係を築きたいという希望も受講生から出されています。より充実した研修を計画し、当研究センターが都道府県間の研究、調査、普及指導の協力関係構築の一助を担いたいと考えています。

(担当:中央農業総合研究センター 業務推進室 三枝)



雑草情報データベースの活用法の講義



畑雑草の同定・識別実習



病害についての講義風景



大豆作業機械の実演